

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

当院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	抗線維化薬投与後症例における PF-ILD 再評価に関する後方視的観察研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座 助教 中村行宏
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2028年3月31日
対象となる方	2008年12月から2024年3月に当院を受診された方のうち間質性肺炎と診断され、進行性線維化を認める事から抗線維化薬（ピルフェニドン、ニンテダニブ）が投与開始された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、身長、体重、喫煙歴、合併症、血液検査データ、呼吸機能検査データ、画像検査所見、抗線維化薬やステロイドなどの治療内容、生存情報、急性増悪歴
研究の概要 (目的・方法)	様々な研究がこれまでにされてきておりますが、一部の間質性肺炎の患者さんは、治療に関わらず、進行性に肺が硬くなり、寿命にも影響を及ぼす事が知られております。呼吸機能検査などによる間質性肺炎における、進行性線維化の基準が知られておりますが、抗線維化薬（ピレスパ®、オフェブ®）投与後の基準合致に関しては、十分、判明してはございません。 そこで今回、これまで、当院で進行性線維化の基準を満たし、抗線維化薬が開始された方の電子カルテ情報から、その後も進行性線維化の基準を満たすか、予後がどの様になるかを研究します。
個人情報の保護について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管

	<p>し外部への提供は行いません。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	<p>愛媛大学医学部附属病院 循環器・呼吸器・腎高血圧内科 中村行宏</p> <p>791-0295 愛媛県東温市志津川 454</p> <p>Tel: 089-960-5303</p>